

# イランにおけるビジネスチャンス

---

【日本（担当：石橋 哲也）】

〒131-0033 東京都中央区日本橋人形町3-3-5

TEL: 03-5619-1335

MOB: 090-6374-0813

FAX: 03-4540-5658

E-mail: [ishibashi@ksn-corp.com](mailto:ishibashi@ksn-corp.com)

【ドバイ（担当：永井 希望）】

Office No. 26, Prime Tower, Business Bay, Dubai, UAE

TEL: +971-56-925-9615

E-mail: [nagai@ksn-corp.com](mailto:nagai@ksn-corp.com)

## 1. イランの概要

**イランは中東地域では最大級の約8,000万人の人口を有する。また、石油産業以外にも自国内で製造業を有する等、他の産油国(特にGCC各国)とは少々異なる側面を持つ。**

- イランは西アジア・中東のイスラム共和制国家であり、北にアゼルバイジャン、アルメニア、トルクメニスタン、東にパキスタン、アフガニスタン、西にトルコ、イラクと境を接している。
- 人口は中東地域では最大級の約8,000万人を有しており、石油産業以外にも自国で製造業を有する等、GCCの各国とは少々異なる側面を持つ国である。



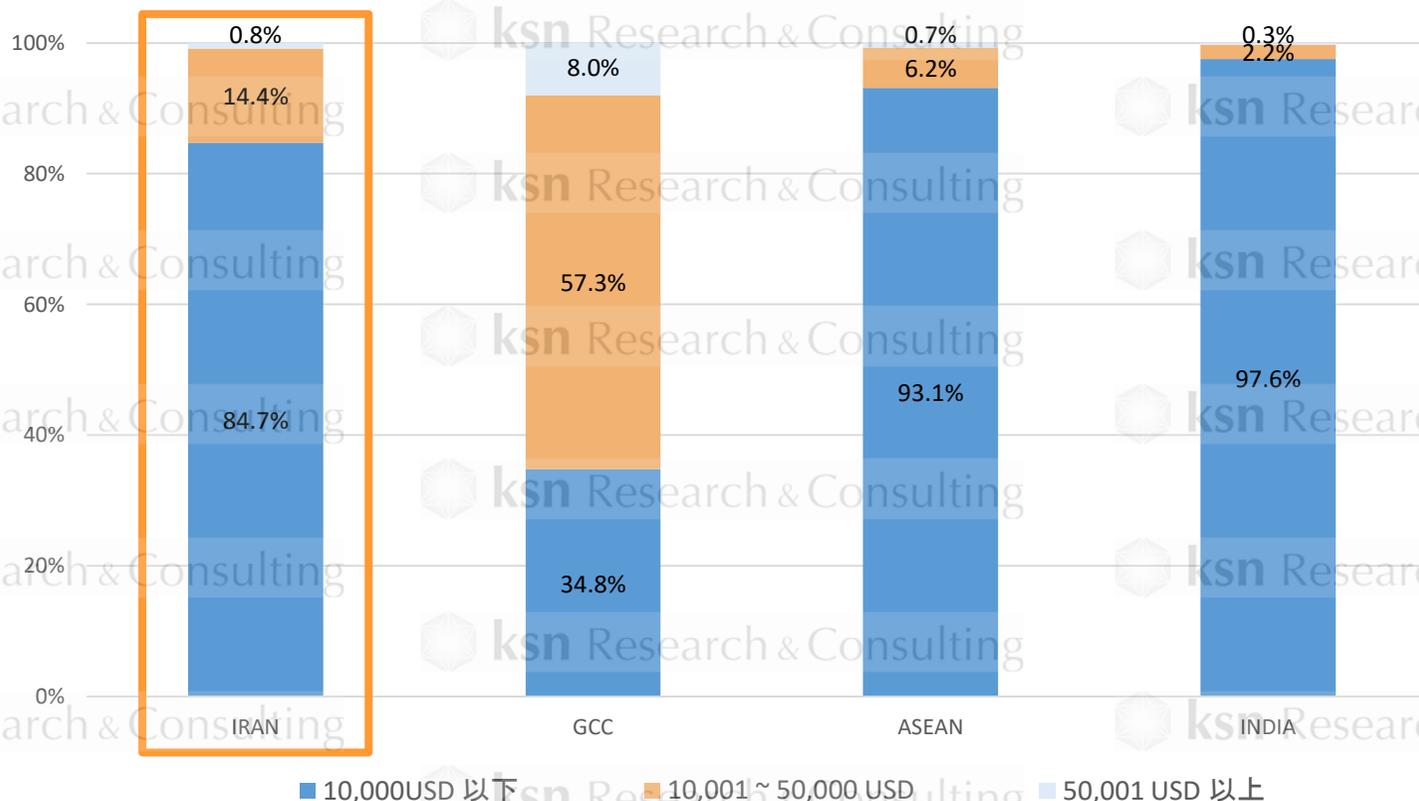
面積	約165万km <sup>2</sup> (日本の約4.4倍)
首都	テヘラン
公用語	ペルシャ語
宗教	イスラム教シーア派: 約90% イスラム教スンニ派: 約10%
民族	ペルシャ人: 約51% アゼリー人: 約25% クルド人: 約7%
人口	約8,000万人
GDP	約4,000億米ドル
1人当たりGDP (名目ベース)	約5,000 米ドル
主要産業	石油産業 自動車製造業
資源 (2014年末時点 /EIA)	原油埋蔵量: 1,580億bbl (世界4位) 原油生産量: 280万BPD (同7位) 天然ガス埋蔵量: 34兆m <sup>3</sup> /1,201 TCF (世界1位) 天然ガス生産量: 1,726億m <sup>3</sup> /6.1TCF (同4位)
日本との時差	5時間30分(日本の方が進んでいる)

## 1. イランの概要

イランにおける所得階層を見ると、ASEANやインドと比較して中間層(年収1万~5万ドル)が多いことが特徴であり、今後、同国では消費面での市場拡大が見込まれる。

- 現状、制裁の影響により、海外の製品へのアクセスが非常に限定的である。
- 今後、制裁解除に伴い、多くの海外企業にとって現地におけるビジネスチャンスが広がると考えられている。

### イラン/GCC/ASEAN/インドにおける所得分布



## 1. イランの概要

### イランにおける制裁の状況。

---

- 現在、制裁解除により、以下の事業については、市場が開放されることとなっている。
  - 核関連制裁の解除: 金融(送金、投資、保険、再保険等)、エネルギー、ガス、鉄鋼、自動車、石油化学、海運 等。
  - 核関連以外の解除: 上流開発(米国人以外)、航空機輸出、米国子会社の取引、イラン産品(カーペット、食品等)の米国への輸出。
- 欧州企業は、米国の動きに注視はしつつも、事業を着実に進めている状況である。
  - TOTAL(フランス)、ルノー(フランス)、BP(イギリス)などのマネジメント層が、JCPOA成立直後にそれぞれイランにおける事業を重視する旨を発言すると共に、現地での事業推進を進めている。
- ただし、今後の課題としては、イラン国内の金融市場の脆弱さが挙げられる。米国による米国法人への制裁の可能性が残るため、欧州大手銀行はイラン取引に消極的であり、現状は欧州中小銀行やトルコ、中国系の銀行が積極的に行っている。
- 大きな金額の送金が困難な状況にあるため、キャッシュを内部留保しつつ現地での投資に回す等、資本を効率的に利用する形で現地事業を推進することが望ましいと考えられる。

## 1. イランの概要:自動車

**イランでは国家の第6次5か年計画で自動車産業を特筆して取り上げる等、同産業における外資導入に積極的に動いている。**

- 第6次5か年計画に併せて、イラン商工産業鉱山省は、自動車生産台数について現在の約100万台から2025年までに300万台に拡大し、周辺国への輸出を拡大すると発表している。
- 海外の自動車メーカーの動向では仏プジョーシトロエングループ(PSA)と独ダイムラーの商用車部門は、イランでの生産投資を開始している他、中国の奇瑞汽車がイランに自動車生産のための工業団地設立に合意したと発表している。
- また、完成品メーカーではないが、関西ペイントが現地において合弁会社を立ち上げ、現地自動車メーカーに対して塗料の供給を行う等、完成品のみならずその周辺産業におけるビジネス機会も拡大している。

**イランにおける自動車の生産台数(万台)**



**イランにおける自動車の販売台数(万台)**



## 1. イランの概要:消費財

**消費財市場:日本企業ではJTが現地たばこ製造会社を買収する等の動きを見せているが、その他の分野では日本企業の動きは限定的。欧州系はパートナーとの現地製造に着手。**

- 日本たばこ産業(JT)は、2015年の9月にイラン5位のたばこ企業であるアリヤンを現地法人を經由で買収し、完全子会社化した。
- JTはイランのたばこ事業でトップシェアであったが、品ぞろえは中・高級ラインが中心であり、低価格帯に強いアリヤン社を買収することで、品ぞろえの強化を図っている。
- また、既にイランで漂白剤、石鹼などの非食品の製造拠点を有していたユニリーバ(オランダ)は、2017年の12月に現地会社であるGolestan Co. とJVを組み、食品の製造を現地で開始することを発表した。
- Golestanは既に茶、米、スパイス等の食品を現地で取り扱っており、食品と取り扱う経験と現地における流通網・販路を提供すると共に、ユニリーバは世界で培ってきた商品開発(R&D)の知見を提供すると発表している。
- 人口が多く、所得もそれなりに高く、現地において製造機能を有する企業が多い点がイランの最大の特徴であり、国内生産及び国内販売による事業化可能性が他の中東諸国に比べると高い。

## 2. イランにおけるビジネスチャンス

人口も多く(マーケットが大きく)、自国で製造業を有する(設備、技術が既に存在する)イランは中東では珍しい製造業のターゲットとなりうる市場である。

### 主要ターゲット市場

### 市場概要

#### 自動車関連

- ✓ 現地製造拠点及び市場

- ✓ 前述の通り、イランには2社の主要自動車OEMが存在しており、自社内で完成車を生産する技術を有する。
- ✓ 一方で、それらのOEMはプジョーやルノー等、欧州の車メーカーの現地製造パートナーとしても活動している。
- ✓ 市場が大きい上に、周辺国への輸出も可能なイランは、日本のOEM及び部品メーカーにとっては、大きなビジネスポテンシャルを有する市場であると考えられる。

#### 消費財関連

- ✓ 現地製造拠点としての高度／新規の技術導入

- ✓ 海外からの輸入品が限定的なイランは、日用品の製造メーカーが多数存在しており、中東では珍しく、自国で製造業を有する国である。
- ✓ 日本メーカーに対する印象も良く、現地における製造パートナーとしてそういった企業と協業し、現地で商品販売することは製造業全般のビジネスチャンスになると考えられる。

※ ただし、現地の金融市場が脆弱であるため、大規模な送金が困難であるため、現地で資本を効率的に回すスキームの確立が重要になる



**ksn** Research & Consulting